

第4回西播磨新地域ビジョン検討委員会 会議録（要旨）

1 日時

令和3年8月2日（月） 15:00～16:00

2 場所

対面（西播磨総合庁舎 第1会議室）及びオンライン

3 出席者

委員：谷口委員長、田端副委員長、井関委員、長谷川委員、三宅委員、久保委員、門田委員、玉木委員、家氏委員、西嶋委員、熊谷委員、宮下委員、江見委員（代）

県民局：渡瀬局長、久野室長、神尾、大西

4 内容

西播磨新地域ビジョン骨子案について、資料1～4により事務局から説明し意見交換を実施（主な発言内容は以下のとおり）

（委員）

分かりやすく纏めていただいている。

気になる点の1番目は、まとめ方（取組目標が16個、イラストを作成すること、デザインの作成を高校に依頼すること。）が中播磨に似てきているように思うが、その点が問題ないのか気になった。2番目に「ピクトグラムはSDGsを参考に」と前回申し上げたが、見た目やデザインの構成等が似ているので、大丈夫かなという懸念を持った。

また、今後、イラストをどのように使っていくことを想定しているのか、今の段階での考えを聞きたい。

（事務局）

1番目ですが、ピクトグラムの的なものを作る方向であることなど、適宜、中播磨とは情報共有している。取組目標が16個で、デザインを高校に依頼する点については、たまたま同じになったものであるが、中播磨と西播磨で同じような内容になったとしても問題はないと考えている。

3番目のイラストの使用イメージは、本体案は冊子形式で策定したいと考えているが、県民向けに簡潔明瞭なものを作ればと思っている。その中に、ピクトグラムを効果的に入れたいというイメージを持っている。2番目のSDGsに似すぎている点については、別途確認を取りたい。

（委員）

委員が、中播磨と西播磨で見せ方の意見を出されたものが採用され、似てきたというのは評価されることだと思う。

SDGsに似ている点について、地域ビジョンの見せ方がSDGsと同じような形になることで、見る側も同じ流れで見ることができるので、逆に似た方がいいと思う。

ピクトグラムに関して事務局にお願いしたいのは、案の段階で、各委員に確認いただき、皆さんの意見を踏まえて完成形にしていければと思う。

（委員）

中播磨と似てくることについて、特に支障がないのであればそれでよい。それぞれのエリアの住民の方に届くというのが一番大事。SDGsの著作権等の確認を事務局の方でお願いしたい。

(委員)

前に比べ躍動感が出てきていると思う。

(委員)

取組目標の「目指そう」という言葉について、ひらがなと漢字が混在しているので、統一した方がいいと思う。

(委員)

取組目標 1 4 「移動に困らない地域を目指そう」の「地域の足である公共交通機関・・・」の「足」という表現を「地域の交通手段である」などの表現に変えてはどうか。

(委員)

方向性に関してもご意見があればお願いします。

(委員)

「〇〇しよう」は、誰に呼び掛けているイメージなのか、以前議論されたのかを教えてください。

(事務局)

2 番に限らず、あくまでも西播磨の地域住民に向けての取組目標ということでイメージしています。

(委員)

わかりました。2 番は「世界中から西播磨に来てくれて、体験学習ができる。そのような方を受け入れるために、住民の方協力してください。」というイメージでよろしいですね。

先日、学生が「若者」の定義とは何かという話になったが、「結婚を希望している若者」について、これは「若者」に限ったことではないと思う。

1 4 番「移動に困らない地域をめざそう」について、公共交通機関に依存していだけで大丈夫かということ。今後 3 0 年を考えた時に、公共交通だけでいいのか、「移動が困難な人に対する支援も充実」とあるように、すべてのトランスポートサービスを考えていると思いますが、後半部分では公共交通に特化した形になっていて、この辺りだけで十分なのか。公共交通機関を守ろうと言っても、今ですら厳しくなっている。JR もアーバンネットワーク以外の兵庫県内の路線を相当削っていくということになっているので、この辺りが、これだけで充分なのかと気になった。

1 0 番「地産地消」について、エネルギーの地産地消は素晴らしいと思いますが、熱海の一件以来、それが要因ではないと言っても太陽光発電が問題になっていて、安全安心に係る部分で調整されていると思いますが、最近そのような議論が出てきているので、西播磨は自然を守るという立場に立っているのが一つの方法かと思います。

(委員)

3 番の「若者」は「人」に、1 0 番の「再生可能エネルギー」の後ろの括弧は外してもいいかもしれません。

1 4 番「移動」について、市町の方はどう思いますか。全国で住民同士での助け合いはされていますが、市町としては「公共交通機関」で留め置く方がいいのか、「住民相互」と併記すると弊害があるのか、このあたりの表現はいかがでしょうか。

私の住んでいる町で、高齢者の移動を住民が自前で行う計画を立てたが、町の担当者が潰したことがある。住民相互に助け合いをすると、神姫バスの乗降

客が益々減るため、神姫バスから路線縮小を匂わされ、町は公共交通機関側に立ってしまったということがあった。表現一つでセンシティブな部分があるかと思う。市町の方のご意見はいかがでしょうか。

(委員)

赤穂市では社会福祉協議会がそのような事業を行っているが、表現としてあまり表に出すのは難しいかと思います。

(委員)

地域的には深刻な課題であり、住民相互という部分を並列で書き込んでいくのはいかがですか。30年スパンで考えると、公共交通機関頼みというのは、伸びきったゴムになりかねないところもあると思うがいかがでしょうか。

(委員)

佐用町では、江川地域づくり協議会で地域住民が運転し、通院や買い物支援をしているが、公共交通機関とはうまくやっている。公共交通機関の入りにくいところに住民の方たちが入っており、地域の活性化にも繋がっている。佐用町としては特段気にならない。

(委員)

今日の段階で文言を入れる、入れないを決めるのは難しいので、いったん保留にさせていただいて、文案を作った上で、書面で流させていただく形でもよろしいか。

(委員)

公共交通機関を守っていくことは大事で、そのためには民営事業者との住み分けは重要。宍粟市のように人口密度が低い地域は、伸びきったバス路線を維持するために補助を出すなど、いかに地域交通を維持していくかが課題としてある。これは市町だけの課題ではなく、県と国、中山間地域を抱えるエリアの一つの課題であり、多様な手段を想定しておく必要がある。

(委員)

社会福祉協議会が5年ほど前に購入した車両がある。利用者が少ないので、地元の地域で当該車両を利用させてもらおうとしたが、タクシーとかの兼ね合いで、無料で個人が行うのは非常に難しいと感じた。バス停の近くに自家用車の駐車場があるので、バスを待っている人がいれば「同乗されますか」と聞いて、事故しないように気を付けて時々乗せている。住民相互の助け合いが市民レベルでの限界かなと感じている。

(委員)

取組目標の中に抽象化されすぎたものがあるかなと思う。

例えば4番は、あらゆる多様性だと広すぎるように感じる。4番が外国人や地域外の人ということであれば、「地域外の方を雇用しよう」などの方がいいのかなと感じた。

7番は、これだけ見るとわかりにくい。働き方がメインであれば、「多様な働き方をつくろう」の方が中身とあっていると思う。

13番は、少し広くなりすぎていて、もう少し絞ったような表現の方がワードを見たときにパッとわかると思う。

そのほかは、具体的に入っているのがパッとイメージできると思う。

この3つは抽象化されすぎているので、もう少し具体性を高めた方がいいのではないのでしょうか。

(委員)

ここは皆様のご意見を頂戴したいと思います。

私は逆に4と7は絞らない方がいいかなと思っています。

多様性について、一人ひとりが違うというのは、外国人だけにとどまらず受け止めたいなと思っているので、この方がいいかなと感じています。

7番は、働くということに特化されがちだが、障害のある方は、一般的な労働だけが働きではない。地域で輝いて生活していることを含めて働きというか、活躍という形でとらえると、「自分らしく活躍できる」と広くとらえる方がいいのかなと思う。両論あると思うが、他の委員どうでしょうか。

(委員)

あらゆる多様性のところで、外国人だけではないと思っていた。赤ちゃん先生プロジェクトに携わっている時、小中高大学生に命の大切さを伝える活動をしていたが、「みんな違ってみんないい」ということを、命の大切さとともに伝えていた。みんな違ってみんないいという視点で多様性のままでいいと思う。

子育ての表現について、子どもが自分で育つ力を応援するという意味かなと思ったが、一般的に子育て世代の方が理解できるかなと感じた。一步間違えると、ワープロの打ち間違いに思われぬか。

(委員)

4番を広げるのであれば、人それぞれに多様性があるというのが浮かび上がる方がいいし、絞るべきだということであれば、タイトルを変えるというか要検討でしょうか。

(委員)

外国人に絞った方がいいという趣旨ではなく、中身とタイトルとの整合性の話をしたところ。中身の文章を見ると、外国人とか外部人材が主にあるのかなと思った。いろんな多様性を組み込んでいくということが中身としてあるなら、今の表現でいいと思う。

(委員)

子育ては、前々回ぐらいにこの表現に修正したところ。子どもをどこまでも権利の主体として考えていくなれば、子どもは育つ、それを周りがサポートするという趣旨で、この表現を使っていたので、ここはバックアップしたい。

最初は馴染まない言葉でなんだろうと思われる方はいると思うので、補足説明は検討させてください。

(委員)

分かりやすく手直ししていただきありがとうございます。

3番について、若者と併せこれからの時代、男女も使うかどうか検討していたら感じました。

10番の地産地消のところで、森林部分についても書いていただき、個人的にもうれしく思うが、地産地消自体が目的というより、産業育成ですとか、木材を使うことによって、6番の快適な住環境とか子育ての助けになるとか、このままでもいいんだが、そのあたりも意識してもいいかと思った。

2050年を想定すると、地域の皆さんがこのビジョンを見て元気づけられるのが重要なかなと思っている。2050年の時代は、生産人口が半分になる。過疎化が進んで限界集落が増え、高齢化、買い物、医療、さらに気象が激化して災害が増え、これからどうなるんだろうと非常に不安に感じられる方が多いのではと思っている。第4の13~16番の部分に項目として上がっているが、他

と比べると少し文章が短いので、もう少し充実していただけたらどうかと感じた。

(委員)

10番の森林の部分のところで、より広い効果が10番だけに留まらないところを、少し文言として考えていただければと思います。

特に16番あたりが、もう少し説明のところということですね。このあたりは、市町の役割が大きくなってくると思うが、市町がめざすべき動きのところを文章化していただければと思います。

(委員)

よくまとまっている印象を受けました。

北播磨にも携わっているのですが、北播磨と比較して見ていたが、北播磨とは若干つくりが違っており、そういう意味では中播磨と偶然近づいたのかなという気はします。

少し気になったのは、4番の「地域の現状と課題」の欄に5～7の項目とリンクさせているという表記になっており、「5 増加する小規模集落と人口の偏在化」と「6 地域のコミュニティ機能の低下」を表しているのが、取組目標の4行の最後1行ということになるのでしょうか。

取組目標3番の1、4～6と重なっている部分があって、4番の多様性について、自治組織の運営方法の多様性がイメージしにくい。今の広域化の流れについて、30年後にイメージしにくいのが、助け合いの精神で一つの集落では出来ないことを小学校区とか大きな単位で繋ぎながらやりましょうというのは、3番である程度表現できているのかなと思う。それがほどよいおせっかいかどうかは私の中では収まりがつきにくいのが、4番の最後の行との関係性がしっくり受け止められなかったというのが私の感想です。

7番の自分らしく活躍できるというのは、自分らしくいろんな活躍のことを表現しているので、あまり具体的にせずともいいかなという印象を持ちました。

北播磨と少し温度が違うと思ったのが、産業をどのように位置づけるかというか、打ち出し方が北播磨はわりと強めに打ち出してまして、もともといろんな地場産業や広大な平野など地域性にもよるのかもしれないが、この辺の産業の部分の打ち出しは弱くていいのかなと気になった。変えてほしいということではなく、そういう印象をもった。

いずれにしても比較的西播磨の特長をうまく柔らかく出している感じに好感が持ててよかったという印象です。

(委員)

4番は5～7になっているが、7だけでもいいかもしれない。多様性はここだけ独立して大事だということがあるので、無くても通じるのかなと思います。

7番の産業について、何か意見はございますか（特に意見なし）。

「男女」は抜きましようか。

保留のところはあるが、大きな方向性というか、前回の意見を踏まえた骨子案の全体としては、概ねこれでご了解いただいてよろしいか。細かな文言、整合性の問題については、一度持ち帰り、書面で了解をとっていきたいと思うがよろしいか（各委員了承）。